

# ギブ・アンド・テイクの精神で人脈づくりを 情報担当者に要求される9カ条

## 情報探索のためのコンタクト先

### 日ごろから人脈づくりを

仕事でいろいろ調べようとするときは、まず社内の同僚や、各種の会合で知り合った人たちにたずねるのが普通であろう。この人たちとはいつも交流があるので、電話で簡単にお問い合わせすることができる。

そうした人脈づくりのためには、シンポジウムやセミナー、原子力関係であれば原子力学会主催のシンポジウムや年会、原産の年次大会などのように、いちどに多くの人に会える会合に出席することも大切である。わたしは、こうした会合では、できるだけ多くの人に会い、話し合うようにしている。同じ専門分野の人と話すのはもちろんのこと、異なる専門分野の人たちとも話すようにしている。また、在日外国大使館の人たちや外国からの参加者と知り合いになっておくと、将来有用な人脈となる。

要は、積極的に誰にでも話しかけることである。そして、こちらの専門分野や興味を持っている事柄を相手に伝え、相手の専門分野を知ることが大切である。そのとき私は、自分がいまだどんな事柄を調べているのか、どんな点で困っているのかを話すようにしている。この方法で私が必要としているデータをすぐに教えてもらったり、後日教えていただいたことが多い。

また、普段見落としがちの人脈対象は、新聞社、公共放送会社、通信社の報道関係者であろう。東京にある外国の通信社も大切である。これらの報道関係者と信頼関係を築いておくと、いざというときに

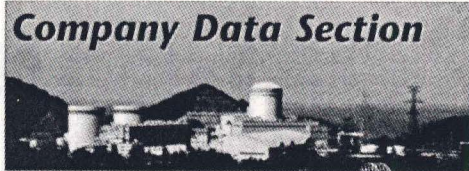
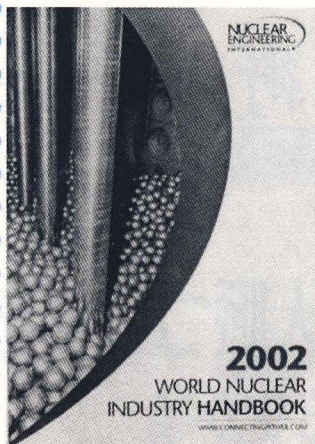
助けてくれる。そのためには、報道関係者が困っている問題について、自分のもっている専門知識を提供することも大事なことである。報道関係者と知り合いになることなど、とてもできないと考える人が多いかもしれない。しかし、日ごろ新聞を読んでいて、よくまとめた記事や間違った記事があったとき、記事を書いた記者に電話して知り合いになる糸口をつかむことも可能である。記者も人脈で仕事をしているし、私たちと同様、読者の反応を待っているのので、ほめられたり間違っていたことを教えてもらえれば感謝してくれるにちがいない。

### 情報をもっていそうな人の見つけ方

自分が現在もっている人脈で、調べている事柄がどうしても解明できない場合は、各種の名簿を利用する。例えば、原産が毎年出版している「原子力人名簿」や「日本原子力学会会員名簿」(注：原子力学会の会員しか購入できない)、電気新聞社の「季刊電力人事」などがある。

日本原子力産業会議の「原子力人名簿」は、原子力界の官庁、電力会社、原子力関連企業、大学の組織と人名が出ているので非常に便利である。「日本原子力学会会員名簿」は、人名での検索は容易であるが、組織からの検索はできない。また、電力業界の場合は「電力人事」が有効である。

外国にある国際機関、国家機関、原子力関連企業の場合は、Nuclear Engineering International社が毎年発行している「World Nuclear Industry Handbook」や、Nuclear Newsが毎年発行している「Buyers Guide」が最適である。これらには、住所、電話番



Argentina	
<p><b>Argentinian Nuclear Corporation</b>            Av. Corrientes 1250, Buenos Aires, Argentina            Tel: +54 11 4782 1000            Fax: +54 11 4782 1001            E-mail: info@argentinianuclear.com.ar</p>	<p><b>Argentinian Nuclear Corporation</b>            Av. Corrientes 1250, Buenos Aires, Argentina            Tel: +54 11 4782 1000            Fax: +54 11 4782 1001            E-mail: info@argentinianuclear.com.ar</p>
<p><b>Argentinian Nuclear Corporation</b>            Av. Corrientes 1250, Buenos Aires, Argentina            Tel: +54 11 4782 1000            Fax: +54 11 4782 1001            E-mail: info@argentinianuclear.com.ar</p>	<p><b>Argentinian Nuclear Corporation</b>            Av. Corrientes 1250, Buenos Aires, Argentina            Tel: +54 11 4782 1000            Fax: +54 11 4782 1001            E-mail: info@argentinianuclear.com.ar</p>

2002 World Nuclear Industry Handbookに掲載されている Company Data Sectionには会社の住所、電話、FAX番号、電子メール、キーパーソン、営業内容が紹介されている

号、FAX番号、TELEX番号が掲載されている。  
 また、原子力発電所の場合は、原産の「世界の原子力開発の動向」の後半に世界の原子力発電所の所在地、電話番号、FAX番号、TELEX番号、ホームページ(注：記載されている発電所は多くない)が掲載されており、これらを使うと、情報の探索範囲が格段に広がる。

日本国内での情報探索は、これらを使って情報をもっていそうな人に電話をかける。その人がこちらに必要な情報をもっていなくても、次に誰に連絡したらよいかを教えてくれることもある。要するに芋づる式に情報探索を行うのである。

また、問い合わせ先が外国の場合は、FAXや電子メールで手紙を送り、同時に相手が興味を示しそうな資料や自分の会社の英文パンフレットを航空便で送る。この場合、自分のまとめた資料を添えると、こちらの誠意が通じる。ただ質問状を送るだけでは、手紙の回収率はよくない。また、時差を考慮して電話で話すと、こちらの意図がよく伝わる。また、相手から資料を請求されたら、すぐに英語か日本語の資料を国内で探し出し、日本語は英語に直して航空便で発送する。そうすればこちらの誠意が通じ、自然に人脈が広がっていくものである。

### 旧約聖書の時代から 調査方法は変わっていない

「スパイの世界」(岩波新書)を1992年に出版した中蘭英助氏は、その本の「おわりに」で、次のように記している。  
 第二次世界大戦後、純文学から出発した筆者は、

60年に政治ミステリーを書き始め、あたかも問題の専門家のように見なされることが続いたが、ここ10年ほどは本来の仕事に立ち返っていた。20世紀の終末を待たず、ソ連共産党の崩壊と冷戦構造の消滅という政治ミステリーの根底をゆるがすような一大変化が起こったとすれば、これまで書いてきたものを見直し、総括する必要があるはしないかと考え、一挙に筆をすすめ、「スパイの世界」を書き上げた。

同氏は、第二次世界大戦中、北京の邦字紙の記者をしていて、そのとき、中国人の俳優・陸柏年から「きみは人類という立場に立ってますか」とたずねられ、中蘭氏は「国や民族が違ってても、青年同士、互いに理解できるはずだ」と答えた。それ以後、同氏は人類という立場で多くの小説を書いた。なお、中蘭英助氏は2002年4月に81歳で亡くなられた。

私が97年ごろ、東京駅近くの大きな書店で何となく書架を眺めていたとき、この本が読んでほしいといわんばかりに私の目に飛び込んできた。私が勤務していた会社は、多数の資料を保管しており、ときどきふらりと書架の中を歩き回ると、探している項目に関して、資料の方から「見つけてほしい」と目に飛び込んでくる経験をしているので、早速購入した。読み進むと、私たち調査に携わる者にとって必要な調査方法がふんだんに盛り込まれているのである。ここにその一端を紹介する。

### 相手を知り自分を知る古代の偵察隊 (旧約聖書の民数記第13章16～23節に記載)

聖書に親しんだ人は、神が約束の地であるイスラエルに入る前に、モーセに命じて偵察隊を送ったことを知っておられるだろう。そこで、新改訳聖書

(日本聖書刊行会、60年発行)から、その部分を紹介しておこう。

歴史的に言えば、紀元前13世紀のことである。長年住み慣れたエジプトを、モーセに率いられて脱出したイスラエルの民は、40年間シナイ半島をさまよった後、現在のヨルダン川西のパレスチナを安住の地として、カナンをはるかな眼下に望む山に到達した。カナンは、エジプトを脱出したイスラエル人の祖先が、その地の飢饉のため、エジプトに避難する前まで住んでいた土地であった。

1節から3節までに「主はモーセに告げて仰せられた。人々を遣わして、わたしがイスラエル人に与えようとしているカナンの地(ネゲブから山地にかけての地域)を探らせよ。父祖の部族ごとに一人ずつ、みな、その族長を遣わさなければならない」と。

モーセは、ヌンの子、ヨシュア(主は救いを意味する)を隊長とし、12の部族の族長たちをカナンに探りに行かせた。

出発にあたって、モーセは次のようにいっている。17節「あちらに上って行ってネゲブに入り、山地に行って次の探索をせよ」。そして18節から20節では「その地がどんなであるか、そこに住んでいる民が強いか弱いか、あるいは少ないか多いかを調べなさい。また彼らが住んでいる土地はどうか、それが良いか悪いか。彼らが住んでいる町々はどうか、それらは宿営かそれとも城壁の町か。土地はどうか、それは肥えているか、やせているか。そこには木があるか、ないかを調べなさい。あなた方は勇気を出し、その地のくだものを取ってきなさい」と。その季節は初ぶどうの熟するころ(季節は夏)であった。

25節から31節には、ヨシュアの偵察隊は40日かかって、その地の偵察から帰ってきたとある。彼らは、その地のくだものであるぶどう、ざくろ、いちじくなどをたずさえて帰ってきた。そして果物をモーセとアロンに差し出し、「そこにはまことに乳(牛や山羊の乳)と蜜(蜂蜜や果物をさすともいわれる)が流れています。そしてこれがそのくだものです。しかし、その地に住む民は力強く、その町々は城壁を持ち、非常に大きい」と報告した。

モーセが12族長たち(部隊長に相当)の偵察隊に命じた調査要領は、私たち調査を担当する者の基本的要領である。私たちがモーセの時代に生きていたと

考えると、今から侵入する敵方の現状を探るのであるから、この調査要領はスパイに与えられた基本的任務である。ヨシュアの偵察隊は40日かけて現地調査をして帰り、調査結果を報告したのである。

このように、紀元前13世紀でも、現在と同じ調査要領でスパイ活動(調査活動)が行われていたのである。

### スパイ行為の本質はアクセスすること

CIA第5代長官のアレン・ダレスが「スパイ行為の本質は、アクセスすることである」と述べている。

中蘭氏は、すぐれたジャーナリストが「アクセス」という原則的な活動のモデルを残した挿話を紹介している。

12年、チェコスロバキアの新聞記者、キッシュが、ピルゼンにあるシュコダ兵器工場で移動曲射砲を製造しているのを、彼は工場に一步も入らずに外部の取材だけでこの事実を推定し、プラハの新聞に掲載した。当時は全く各国情報機関の注意も集めなかったが、2年後の14年夏、第一次大戦のベルギー軍前線にドイツ軍の新型曲射砲が現れ、連合軍を驚かせたが、この秘密兵器が2年前に新聞に掲載されていたので、キッシュの文名を一躍高めたのである。

### 情報担当者の資質と適性

中蘭氏は、ダレス氏がCIAの中級研修員クラスで情報官の資質として9項目をあげたことを紹介している。これらはいずれも重要であるが、そのなかの一部をあえて筆者が選択しここに掲載する。

- ①人間を見る能力がある
- ②困難な条件下で他人と協力して働ける
- ③事実と虚構を判断できる
- ④大切なことと大切でないことを区別できる
- ⑤探求心を持っている
- ⑥大きな工夫力を持つ
- ⑦微細なことにも適当に注意を払う
- ⑧考えを簡潔、明晰、かつ大切なことは面白く表現できる
- ⑨沈黙しなければならぬときは口を閉ざす

中蘭氏がいう、情報担当者に要求される資質は、このまま官庁や会社のプロジェクトチーム要員の心得として必須と思われる。これに外国語に堪能で外国事情に精通していることという条件を付け加える

と、商社の中堅社員に対する必須条件になると述べている。

私も、70年以降、原子力に関する調査関係の仕事をしているが、前記の9項目はまことに私たち調査関係者にとって必要であることを実感した。

### 第一線商社マンと諜報の資質は等質か

旧陸軍情報原則書「諜報宣伝勤務指針」は、情報担当者の諜者操縦にあたっての心得を「気を以て相手の気を制せざるべからず」としている。また、諜者の資格として、「諜者として一般に具備すべき要素は諜報目的に関する事情に通じ、犠牲的精神および責任観念に富み、大胆冷静にして明敏なる観察および推理力、良好なる記憶力、強健なる心身ならびに堅忍性を有するにあり。なお、必要な語学に練達せることも必要条件なり」。

中蘭氏は、これが現代の第一線商社マンらに与えられる社訓に麗々しくかかげられていたとしても、決しておかしくはないと述べている。

### 陸軍中野学校の諜者教育

諜者教育を、最も組織的かつ実戦的に実施したのは陸軍中野学校であった。38年春、後方勤務(情報)要員養成所として九段坂下の愛国婦人会本部の一画で発足し、後に中央線中野駅のすぐ北側に移った陸軍中野学校は、予備士官学校および幹部候補生出身の社会人として常識豊かな人材を集めたところに特徴がある。

初代の所長は、陸軍きっての対ソ諜報の権威だった秋草中佐である。部外講師には、政治、経済、思想、宗教などに名のある学者を迎え、当時としてはリベラルな学問の成果を取り込もうとしていたと中蘭氏は紹介している。

以上、中蘭氏の書いた「スパイの世界」のごく一部をかいつまんで紹介した。私も70年から原子力の調査関係の仕事をしてきた関係で共感を覚えるところが非常に多かった。この本を読めば、調査を進めるにはどうしたらよいかを十分理解できると思う。

## 満鉄調査部の調査方法

満鉄調査部は、日本人がつくりえた空前絶後の知

識集団であるといわれている。満鉄調査部がどのような調査方法をとっていたのか興味があり、朝日新聞社が発行した草柳大蔵氏著の「実録満鉄調査部」(1983年発行：朝日新聞に連載)を97年に読んだので、その一部を紹介する。

### フィールドワーク(歩くこと)

満鉄調査部の伝統的特色は、「自由主義」と「フィールドワーク」の二つであった。特に「歩く」という伝統は、終戦の満鉄解体まで続いた。

調査部では、資料読みの時代がすぎると調査に出ることが許される。なにを調査するかは本人の選択にまかされていた。「テーマは自分で決める」という基本方針は貫かれていた。ただ、「調査」にあたって「歩くこと」、これだけは厳しく要求された。いまの言葉でいう「フィールドワーク」である。自分の身体は1mmも動かさず、資料をツギハギして報告することは認められない。野間清(83年当時は愛知大学教授)が農村調査に出るとき、上司である天海謙三郎は、「調査をすること自体が目的ではない。調査を通じて、中国人と接触し、彼らを身体で理解することが大切」と教えている。その天海謙三郎は、東亜同文書院の出身で中国の土地慣行調査のベテランである。

### 情報の収集方法

嶋野三郎氏の情報収集方法は、各地からの手紙が基本だった。ソ連はもちろん、フィンランド、チェコスロバキア、ポーランド、エストニア、ラトビア、リトアニアなどに住む白系ロシア人、ことにユダヤ人に手紙を出して、気象、航空気象、水利、食料、人口の配分、農業の発達程度、シベリアにおける種族、風習など、ロシア関係の本を送ってもらう。これをつきあわせながら翻訳していくと、ロシアの正確な情報がそろえるのだった。

私は、海外電力調査会で十分な資料調査をしてから海外へ出かけ、多くの研究所を見学した。また、世界各地の電力会社から年報を取り寄せて読み、不明な個所があるときは、海外の電力会社に直接電話をしたりして情報を集め、お返しとして海外電力調査会で作成した英文資料「日本の電気事業」を送っていた。私の経験からも「各国に出張して現地を歩

くこと」と「世界各地からの手紙(資料)をもらうこと」は、正確な情報分析に必須であった。

## 原子力関係の各種文献 その記載内容の概要

調査をする場合、最初に基礎調査をする必要がある。やみくもに見知らぬ相手に電話しても「私は知りません」の一言で電話が切れてしまうのが普通である。そこで既存の出版物で調べたい項目についての基礎知識を蓄える必要がある。

私がいつも使用している文献を、大まかな優先順で整理してみた。あくまで大まかなものである。

### 原子力発電所のディレクトリー的な資料

#### ◇原子力百科事典ATOMICA(アトミカ)

これはインターネット版の百科事典で、膨大な資料がそれぞれの専門家により作成し、ホームページに掲載しており、それぞれの資料を作成するために使用した引用文献(ページ数も記載)をできるだけ掲載し、かつ関連した資料名も明記し、中立の立場で正確に記述している。古くなったデータは2~3年ごとに更新している。検索機能があり、キーワードを入力すると該当する資料名(小項目)が表示される。

#### ◇世界の原子力開発の動向(日本原子力産業会議が毎年発行)

世界の原子力発電所の炉型、電気出力、着工、臨界、送電開始、営業運転開始、アーキテクトエンジニア、供給者、発電所の住所、電話番号、ファクス番号が記載されており、また世界の原子力界の主な動きをまとめている。この資料は、調査だけでなく、PA(パブリック・アクセプタンス)にも大いに役立っている。

#### ◇World Nuclear Industry Handbook(Wilmington Publishingが毎年1回発行)

世界の原子力発電所の着工、臨界、営業運転開始、技術データや研究炉、核燃料施設の一般データ、および世界の国際機関、国家機関、原子力発電所、原子力関係企業の住所、電話番号、FAX番号、TELEX番号を記載してある。この資料も毎年原子力関係企業に対するアンケート結果に基づいてまとめられており、信頼性が高い。

#### ◇詳細原子力発電プラントデータブック1994年版(日本原子力情報センター刊、藤井晴雄、森島淳好編)

世界の原子力発電所の炉型、着工、臨界、営業運転開始、技術データを世界の原子力発電所を運転する電力会社に対するアンケート結果に基づいてまとめられており、信頼性が高い。①世界における原子力発電所の伸び

実績と今後の予想(93年時点の予想)、②各国別による原子力発電所所在地図、③原子力発電所関係で有用なデータ集、④各発電所の技術データ、⑤発電所地名辞典、⑥付録(各種の略号集、単位換算表など)

#### ◇原子力発電ポケットブック(日本原子力産業会議が毎年発行)

#### ◇原子力発電便覧(電力新報社が数年に1回発行)

#### ◇World Energy Directory a guide to organization and research activities in atomic energy (Publishing Division, Longman House発行、Consultant editor: C.W.J. Wilson Longman)

世界各国にある原子力関係の国際機関、国家機関、研究所、大学の住所、電話番号とその概要を記載しており、大学、研究機関が詳しい。

#### ◇高レベル廃棄物関係ハンドブック(原子力環境整備保護・資金管理センターが発行)

### 世界の原子力界の現状

#### ◇原子力年鑑(日本原子力産業会議が毎年発行)

#### ◇海外諸国の電気事業 第1編(主要諸国、海外電力調査会が5年に1回発行)

#### ◇海外諸国の電気事業 第2編(その他諸国、海外電力調査会が5年に1回発行)

#### ◇原子力産業新聞(日本原子力産業会議が月4回発行)

#### ◇原産マンスリー(日本原子力産業会議が毎月発行)

#### ◇電気新聞(電気新聞社が毎週6回発行)

#### ◇月刊エネルギー(日本工業新聞社が毎月発行)

#### ◇原子力eye(日刊工業新聞社が毎月発行)

#### ◇日本原子力学会誌(日本原子力学会が毎月発行)

原子力界における最近の動き・海外情報、原子力関係研究所の紹介、各種国際会議の報告

#### ◇Nuclear News(アメリカ原子力学会が毎月発行)

#### ◇Nucleonics Week(マグロヒル社が週間で発行)、日本語版は原産が英語版と同時に発行

#### ◇Nuclear Fuel(マグロヒル社が発行)

#### ◇Inside NRC(マグロヒル社が発行)

#### ◇Nuclear Engineering International(Wilmington Publishingが毎月発行)

#### ◇Nuclear Europe(スイスで欧州原子力学会が隔月に発行)

#### ◇RGN(Review General Nuclear)誌(フランス原子力学会が隔月に発行)

#### ◇Atomwirtschaft Atomtechnik(Atomwirtschaft社が毎月発行、ドイツ)

#### ◇アトムプレス(ロシア原子力省(MINATOM)が毎月発行)

#### ◇アトムナヤ・エネルギー(ロシアで発行) 英語版は約6カ月遅れで発行

#### ◇IAEA Bulletin(国際原子力機関が毎年4回発行)